

浜の活力再生プラン (第2期)

1 地域水産業再生委員会 ID:1101057

組織名	えりも漁協地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 住野谷 張貴

再生委員会の構成員	えりも漁業協同組合 えりも町、様似町
オブザーバー	北海道日高振興局水産課、北海道漁業協同組合連合会日高支店

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	<p>・地域の範囲:北海道幌泉郡えりも町、北海道様似郡様似町 組合員総数801名 (えりも漁業協同組合の範囲) 浅海漁業(こんぶ漁業、海藻漁業、うに漁業、はたはた刺網漁業)644経営体 さけ定置網漁業 20経営体 つぶかご漁業 48経営体 たこ漁業 55経営体 かにかご漁業 28経営体 かれい固定式刺し網漁業 77経営体 その他兼業 (すけとうだら固定式刺し網漁業、ししゃも桁網漁業)</p>
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>当地区は、北海道主部における最南端部であり、えりも岬周辺の太平洋に面した約67kmの海岸線を有し、当地域の基幹産業である水産業は、地域の生活基盤を支える重要な産業となっている。</p> <p>漁業については、こんぶ漁業、海藻漁業、うに漁業、はたはた刺し網漁業等の浅海漁業とさけ定置網漁業、つぶかご漁業、かにかご漁業、かれい固定式刺し網漁業等の漁船漁業が主体となっている。</p> <p>また、当地域のこんぶは、『日高昆布』として全国的に有名で昆布干しをする姿は地域の夏から秋にかけての風物詩となっている。また、えりも岬周辺海域は、世界屈指の漁場となっていることから、多種多様な魚種が漁獲されている。</p> <p>しかし、近年では温暖化による海水温の上昇に伴う海洋環境の変化により、当地区の主力漁業であるさけ定置網漁業において漁獲低迷が続いていることや、新規就業者の減少、漁業者の高齢化に伴う着業者の減少及び生産力の低下によるこんぶ生産量の減少など、海洋環境の急激な変化や産業基盤の弱体化により漁獲量が減少傾向にある。</p> <p>さらには、デフレの影響により魚価安傾向が続いていることや、漁業従事者の高齢化、燃油及び資材の高騰など、漁業を取り巻く環境が厳しさを増すとともに漁家経営は厳しい状況にある。</p>

(2) その他の関連する現状等

<p>当地域は、漁業への依存度が非常に高く、第1次産業就業人口の割合は約5割であることから、漁業の盛衰が直接地域産業へ多大な影響を及ぼす状況となっている。</p> <p>そのため、主たる漁獲物であるこんぶ及びさけ、つぶ、たこの漁獲量の減少は、地元加工業者にとって原材料確保が困難となり、他地域等からの原材料に頼らざるを得ない状況になり、地元産の魚介類を使用した食品の製造減などにより加工経営を圧迫する要因となっているとともに、地域イベント時における水産物の提供確保が難しくなっている。</p>
--

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

○近年は、海洋環境の変化等により資源減少が続いていることから、持続的な水産資源の維持増大を図るため、関係機関と連携して次の取組みを継続して行う。

- ・こんぶ漁場の雑海藻駆除及び投石による漁場の増大
- ・やなぎだこ産卵礁及びふのり漁場造成の整備促進による資源増大
- ・かへの資源量調査に基づく漁獲制限ルールの設定・遵守による資源増大
- ・まつかわの種苗放流による資源増大
- ・真つぶの種苗放流・資源調査に基づく漁獲制限ルールの設定・遵守による資源増大を図るとともに、大学や研究機関と連携した真つぶの生態調査を行うことにより、有効な管理手法の確立を図る。

○消費地ニーズに応えるため、活〆技術の普及、殺菌海水、シャーベット氷の活用による鮮度保持向上を図るほか、次の取組みを継続して行う。

- ・日高定置漁業者組合と連携した「銀聖」ブランド化の取組
- ・殺菌海水による活魚水槽等を活用した活出荷、調整出荷による単価向上対策
- ・各種イベント開催時における地域水産物の販売促進活動の実施
- ・新しく整備した屋根付き岸壁や荷捌き施設、作業保管施設を活用したハードとソフトが一体となった高度な衛生管理体制の構築

○魚価安や経費の増大、組合員数の減少など厳しい漁業経営が続いていることから、漁業経費の削減を図るため、下記の取組みを継続する。

- ・省エネ機器等の導入による漁業用燃料経費の削減
- ・減速航行や船底清掃の徹底による燃油消費量の削減を図る
- ・漁業経営セーフティネット構築事業への情報交換等による加入促進活動
- ・漁港の整備促進による安全かつ効率的な操業の確立

○漁業従事者の高齢化等による後継者確保対策について、下記の取組みを行う。

- ・北海道漁業就業支援協議会が行う漁業就業に係る情報の提供やPR活動の支援の実施
- ・北海道漁業就業協議会が開催する北海道漁業就業フェアへのブース出店
- ・新規漁業就業者の漁業研修制度を活用した研修支援の実施

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

○共同漁業権内における漁獲規制の設定

○漁業協同組合における資源管理計画に基づき自主的資源管理措置の実施による資源保護及び漁業経費の削減

- ・さけ定置網漁業、こんぶ漁業、たこ空釣り縄漁業、たら固定式刺し網漁業、かれい固定式刺し網漁業、つぶかご漁業の休漁期間設定。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成31年度）

漁業収入向上のための取組	<p><継続取組内容></p> <p>・浅海漁業者（644経営体）と漁協は、1期目同様にこんぶ資源が持続的なものとなるよう、こんぶの遊走子が放出される9月から12月にかけて雑海藻駆除を行うことで藻場の保全に努める。また、投石を行うことで新たな藻場の確保に努める。さらに、ふのりについても漁場造成の整備促進を北海道に要請する。</p> <p>加えて、漁業者はウニやハタハタの増殖事業（種苗放流）の実施とあわせて、ヒトデ駆除に取り組むことで浅海資源の増大を図る。</p> <p>・さけ定置網漁業者（20経営体）は、漁獲後の流通過程で鮮度が長く維持されるよう、消費地販売店等からのニーズが高い秋さけ及びぶりを対象に、「船上活メ」に取り組むとともに、その後は船上にてシャーベット氷を入れた海水槽を使用して運搬し、荷揚げ後は殺菌海水を入れたタンクでの保管を行うことで衛生管理・低温保管を徹底する。このため、「船上活メ」技術の習得を目標に、漁協が中心となって、漁業者を対象とした技術講習会を開催する。</p> <p>また、漁業者は、日高定置漁業者組合と連携し、日高定置漁業者組合のブランドである「銀聖」のブランド化を推進するため、大消費地である札幌市における「北海道秋サケ祭り」や道内の地域産品を集めた物販イベント「北のアメ横さっぽろ」での展示即売会、管内の小中学校に給食の食材として「銀聖」を提供していくなど知名度の向上に取り組む。</p> <p>さらに、漁業者は、春定置網で漁獲される時鮭についても、販売先のニーズを踏まえ、船上活メの出荷割合を増加するとともに、シャーベット氷や殺菌海水を活用するなどにより、品質管理を徹底し、継続して付加価値の向上に取り組む。</p> <p>近年漁獲が増加しているぶりについては、これまでなじみがなく流通形態が確立していないことから、上記の「船上活メ」を行わないぶりでも、販売先の需要を確認しつつ、道漁連と連携した東北4市場、関東、関西方面への販路を検討する。</p> <p>また、「船上活メ」のぶりについては、北海道における大消費地である札幌圏に向けた試験的な出荷に取り組むとともに、需要動向のニーズを調査する。</p> <p>・つぶかご漁業者（48経営体）は、新たに真つぶの種苗放流を実施するとともに、自主的な期間休漁に取り組むことにより、真つぶ資源の維持・増大を図るとともに、大学や研究機関と連携し、真つぶの生態調査や種苗生産技術開発を行うことにより、有効な資源管理手法の確立を目指す。</p> <p>また、真つぶの漁獲後の畜養水槽や殺菌海水を活用した砂抜きや漁獲物の洗浄、消費地市場の市況を勘案しての調整出荷に取り組むべく関係者との調整に努める。</p> <p>つぶの輸出については、韓国への輸出を継続するとともに、他のアジア地域に対する輸出の可能性について関係者にて協議する。</p> <p>・たご漁業者（55経営体）と漁協は、北海道庁に対し、たこの産卵・育成漁場の整備促進を継続して要請するとともに、整備した施設の効果が高めるため、自らも自主的な漁獲体長制限の実施をすることでたこの資源増大を図るとともに、消費地飲食店等においてこれまでの鮮魚から「活」へのニーズが高まっていることを背景に、漁獲後は海水シャーベット氷を入れた船内水槽に、また荷揚げ後は殺菌海水を使用した活魚水槽を活用して、消費地までの活出荷に取り組む。</p> <p>・かにかご漁業者（28経営体）は、研究機関等の協力により資源量調査を実施の上、資源量を把握し、漁獲量の上限を設定するなど適正な漁獲管理に努める。また、近年、消費地からのニーズが高い活出荷を行うため、漁獲後は、シャーベット氷を入れた魚箱で活保管を実施するとともに、荷</p>
--------------	--

	<p>揚げ後については、滅菌海水を入れたタンクにより鮮度保持の徹底を図り、付加価値向上を見込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かれい固定式刺し網漁業者（77経営体）は、関係漁業者団体に構成する「えりも以西栽培漁業推進協議会」内に設置する「まつかわ魚価対策プロジェクトチーム」を中心に、以下の取組を通じて魚価の向上を図る。 <ol style="list-style-type: none"> (1)北海道栽培漁業伊達センター（まつかわの種苗生産を行う）と連携して種苗放流を行うことで資源の維持安定に努める。 (2)漁獲したまつかわの中から、一定サイズ以上、かつ、良質なものだけを選別し、漁獲後、船内ではシャーベット氷を入れた海水槽で低温保管（仮死状態とするべく5℃程度での保管）し荷揚げ後は市場内で滅菌海水を入れたタンクで保管（鮮度保持を目的に10℃程度での保管）することで活魚出荷を行う。 <p>また、まつかわのほか良質なさめがれい及びばがれいも含め、仲買や消費地ニーズに応え海象条件に左右されない安定した出荷体制を構築するべく、活保管による出荷調整が可能な畜養出荷に向けて課題を抽出し解決方法を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えりも漁協、えりも町及び関係漁業者は、静内対空射撃場周辺漁業用施設設置助成事業を活用した荷捌き施設の整備や水産業強化支援事業を活用した作業保管施設の実施設設計及び整備を図る。 <p>また、庶野漁港における衛生管理の徹底のため、屋根付き岸壁の整備を開発局に要請した結果、屋根付き岸壁の整備が図られたため、今後は、これらの施設を活用したハードとソフトが一体となった高度な衛生の強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えりも漁協、様似町及び昆布漁業者は、旭地区においてこれまで使用していた昆布保管庫の老朽化等により昆布の品質が低下したことに伴って単価も低下していたことや、これまで2箇所で行い非効率だった昆布保管を1箇所で集約するため、昆布保管庫の整備を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> ・えりも漁協と全漁業者は、漁業士会や青年部・女性部等の団体と連携し、地域で水揚げされる水産物（こんぶ、さけ、たこ、つぶ等）について、えりも町内で開催される「うに祭り」、「えりも庶野産直市場」、「漁協まつり」や「えりも海と山の幸フェスティバル」において販売促進活動を行うことにより、地産地消を図る。また、町外への旭川市、芽室町における「えりも庶野産直市場」の出店や札幌市内のデパートへ出展することにより、知名度の向上や販路拡大にも取り組む。 <p>また、真つぶの海外向けPR促進のため、5カ国語で記載したパンフレットを千歳空港から各地へ出発するバスの網ポケットに備え付ける事や、定山溪温泉の宿泊施設などにおいてもパンフレットを配布し、PRを図る。これらの取り組みにより、基準年より0.2%の収入向上を見込む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業経営体は、減速航行の徹底や岸壁係留時における機関の停止、定期的な船底清掃及びプロペラ清掃を行うことにより、燃油消費量の削減や修理費の経費削減を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・こんぶ漁業者、沖合漁船漁業者は、省エネ型エンジンへの機関換装を行い、燃油消費の削減に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・えりも漁協及び全漁業者は、漁港が航路等の土砂堆積による漁業作業の非効率化などを解消するため、漁港航路の浚渫、港内の浚渫等の整備促進を国や北海道庁に対して要望するとともに、漁業者自らも潮位変化に影響されない効率的な操業体制を組むことで、燃油消費量の削減に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・さけ定置網漁業者は、春定置網漁業操業時に、えりも周辺海域に出現する大型クラゲにより、網揚げ作業の遅延や漁獲物の鮮度低下を招いていることから、大型クラゲの駆除を実施することにより、漁業被害の防止・軽減対策に取り組む。

	これらの取組みにより、基準年の漁業経費より 1.5%の削減を目指す
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none">・水産多面的機能発揮対策事業・競争力強化型機器等導入緊急対策事業・水産基盤整備事業・水産業強化支援事業・漁業経営セーフティネット構築事業・静内対空射撃場周辺漁業用施設設置助成事業

2年目（平成32年度）

漁業収入向上
のための取組

<継続取組内容>

・浅海漁業者（644経営体）と漁協は、こんぶ資源が持続的なものとなるよう、こんぶの遊走子が放出される9月から12月にかけて雑海藻駆除を行うことで藻場の保全に努める。また、投石を行うことで新たな藻場の確保に努める。さらに、ふのりについても漁場造成の整備促進を北海道に要請する。

加えて、漁業者はウニやハタハタの増殖事業（種苗放流）の実施とあわせて、ヒトデ駆除に取り組むことで浅海資源の増大を図る。

・さけ定置網漁業者（20経営体）は、漁獲後の流通過程で鮮度が長く維持されるよう、消費地販売店等からのニーズが高い秋さけ及びぶりを対象に、「船上活メ」に取り組むとともに、その後は船上にてシャーベット氷を入れた海水槽を使用して運搬し、荷揚げ後は殺菌海水を入れたタンクでの保管を行うことで衛生管理・低温保管を徹底する。このため、「船上活メ」技術の習得を目標に、漁協が中心となって、漁業者を対象とした技術講習会を開催する。

また、漁業者は、日高定置漁業者組合と連携し、日高定置漁業者組合のブランドである「銀聖」のブランド化を推進するため、大消費地である札幌市における「北海道秋サケ祭り」や道内の地域産品を集めた物販イベント「北のアメ横さっぽろ」での展示即売会、管内の小中学校に給食の食材として「銀聖」を提供していくなど知名度の向上に取り組む。

さらに、漁業者は、春定置網で漁獲される時鮭についても、販売先のニーズを踏まえ、船上活メの出荷割合を増加するとともに、シャーベット氷や殺菌海水を活用するなどにより、品質管理を徹底し、継続して付加価値の向上に取り組む。

近年漁獲が増加しているぶりについては、これまでなじみがなく流通形態が確立していないことから、上記の「船上活メ」を行わないぶりでも、販売先の需要を確認しつつ、道漁連と連携した東北4市場、関東、関西方面への販路の検討を継続する。

また、「船上活メ」のぶりについては、北海道における大消費地である札幌圏に向けた試験的な出荷に取り組むとともに、需要動向のニーズ調査を継続する。

・つぶかご漁業者（48経営体）は、新たに真つぶの種苗放流を実施するとともに、自主的な期間休漁に取り組むことにより、真つぶ資源の維持・増大を図るとともに、大学や研究機関と連携し、真つぶの生態調査や種苗生産技術開発を継続し、有効な資源管理手法の確立を目指す。

また、真つぶの漁獲後の畜養水槽や殺菌海水を活用した砂抜きや漁獲物の洗浄、消費地市場の市況を勘案しての調整出荷に取り組むべく関係者との調整に努める。

つぶの輸出については、韓国への輸出を継続するとともに、他のアジア地域に対する輸出の可能性について関係者にて協議を継続する。

・たこ漁業者（55経営体）と漁協は、北海道庁に対し、たこの産卵・育成漁場の整備促進を継続して要請するとともに、整備した施設の効果が高めるため、自らも自主的な漁獲体長制限の実施をすることでたこの資源増大を図るとともに、消費地飲食店等においてこれまでの鮮魚から「活」へのニーズが高まっていることを背景に、漁獲後は海水シャーベット氷を入れた船内水槽に、また荷揚げ後は殺菌海水を使用した活魚水槽を活用して、消費地までの活出荷に取り組む。

・かにかご漁業者（28経営体）は、研究機関等の協力により資源量調査を実施の上、資源量を把握し、漁獲量の上限を設定するなど適正な漁獲管理に努める。また、近年、消費地からのニーズが高い活出荷を行うため、漁獲後は、シャーベット氷を入れた魚箱で活保管を実施するとともに、荷揚げ後については、滅菌海水を入れたタンクにより鮮度保持の徹底を図る。

	<p>り、付加価値向上を見込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かれい固定式刺し網漁業者（77経営体）は、関係漁業者団体が構成する「えりも以西栽培漁業推進協議会」内に設置する「まつかわ魚価対策プロジェクトチーム」を中心に、以下の取組を通じて魚価の向上を図る。 <ol style="list-style-type: none"> (1)北海道栽培漁業伊達センター（まつかわの種苗生産を行う）と連携して種苗放流を行うことで資源の維持安定に努める。 (2)漁獲したまつかわの中から、一定サイズ以上、かつ、良質なものだけを選別し、漁獲後、船内ではシャーベット氷を入れた海水槽で低温保管（仮死状態とするべく5℃程度での保管）し荷揚げ後は市場内で滅菌海水を入れたタンクで保管（鮮度保持を目的に10℃程度での保管）することで活魚出荷を行う。 <p>また、まつかわのほか良質なさめがれい及びばがれいも含め、仲買や消費地ニーズに応え海象条件に左右されない安定した出荷体制を構築するべく、活保管による出荷調整が可能な畜養出荷に向けて課題を抽出し解決方法を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えりも漁協、えりも町及び関係漁業者は、庶野漁港において整備した屋根付き岸壁や荷捌き施設、作業保管施設を活用したハードとソフトが一体となった高度な衛生管理体制の強化を図るとともに、作業の効率化のため、荷受け者である漁協職員と連携し、衛生管理研修会を開催し、衛生管理意識の啓発・普及、漁港における各種作業にかかる動線を整理し輻輳化を回避することで水産物への細菌混入リスクの低減及び製品への異物・夾雑物混入防止に努めるべく、漁港内の作業ルールの徹底を図る。 ・えりも漁協、様似町及び昆布漁業者は、旭地区においてこれまで使用していた昆布保管庫の老朽化等により昆布の品質が低下したことに伴って、単価も低下していたことや、これまで2箇所で行い非効率だった昆布保管を1箇所集約するため、昆布保管庫の整備を実施する。 ・えりも漁協と全漁業者は、漁業士会や青年部・女性部等の団体と連携し、地域で水揚げされる水産物（こんぶ、さけ、たこ、つぶ等）について、えりも町内で開催される「うに祭り」、「えりも庶野産直市場」、「漁協まつり」や「えりも海と山の幸フェスティバル」において販売促進活動を行うことにより、地産地消を図る。また、町外への旭川市、芽室町における「えりも庶野産直市場」の出店や札幌市内のデパートへ出展することにより、知名度の向上や販路拡大にも取組む。 <p>また、真つぶの海外向けPR促進のため、5カ国語で記載したパンフレットを千歳空港から各地へ出発するバスの網ポケットに備え付ける事や、定山溪温泉の宿泊施設などにおいても、パンフレットを配布し、PRを図る。これらの取り組みにより、基準年より0.5%の収入向上を見込む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業経営体は、減速航行の徹底や岸壁係留時における機関の停止、定期的な船底清掃及びプロペラ清掃を行うことにより、燃油消費量の削減や修理費の経費削減を図る。 ・こんぶ漁業者、沖合漁船漁業者は、省エネ型エンジンへの機関換装を行い、燃油消費の削減に取り組む。 ・えりも漁協及び全漁業者は、漁港が航路等の土砂堆積による漁業作業の非効率化などを解消するため、漁港航路の浚渫、港内の浚渫等の整備促進を国や北海道庁に対して要望するとともに、漁業者自らも潮位変化に影響されない効率的な操業体制を組むことで、燃油消費量の削減に取り組む。 ・さけ定置網漁業者は、春定置網漁業操業時に、えりも周辺海域に出現する大型クラゲにより、網揚げ作業の遅延や漁獲物の鮮度低下を招いていることから、大型クラゲの駆除を実施することにより、漁業被害の防止・軽減対策に取り組む。 <p>これらの取り組みにより、基準年の漁業経費より1.5%の削減を目指す</p>

活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none">・水産多面的機能発揮対策事業・競争力強化型機器等導入緊急対策事業・水産基盤整備事業・水産業強化支援事業・漁業経営セーフティネット構築事業
-----------	--

3年目（平成33年度）

漁業収入向上
のための取組

<継続取組内容>

・浅海漁業者（644経営体）と漁協は、こんぶ資源が持続的なものとなるよう、こんぶの遊走子が放出される9月から12月にかけて雑海藻駆除を行うことで藻場の保全に努める。また、投石を行うことで新たな藻場の確保に努める。さらに、ふのりについても漁場造成の整備促進を北海道に要請する。

加えて、漁業者はウニやハタハタの増殖事業（種苗放流）の実施とあわせて、ヒトデ駆除に取り組むことで浅海資源の増大を図る。

・さけ定置網漁業者（20経営体）は、漁獲後の流通過程で鮮度が長く維持されるよう、消費地販売店等からのニーズが高い秋さけ及びぶりを対象に、「船上活メ」に取り組むとともに、その後は船上にてシャーベット氷を入れた海水槽を使用して運搬し、荷揚げ後は殺菌海水を入れたタンクでの保管を行うことで衛生管理・低温保管を徹底する。このため、「船上活メ」技術の習得を目標に、漁協が中心となって、漁業者を対象とした技術講習会を開催する。

また、漁業者は、日高定置漁業者組合と連携し、日高定置漁業者組合のブランドである「銀聖」のブランド化を推進するため、大消費地である札幌市における「北海道秋サケ祭り」や道内の地域産品を集めた物販イベント「北のアメ横さっぽろ」での展示即売会、管内の小中学校に給食の食材として「銀聖」を提供していくなど知名度の向上に取り組む。

さらに、漁業者は、春定置網で漁獲される時鮭についても、販売先のニーズを踏まえ、船上活メの出荷割合を増加するとともに、シャーベット氷や殺菌海水を活用するなどにより、品質管理を徹底し、継続して付加価値の向上に取り組む。

近年漁獲が増加しているぶりについては、これまでなじみがなく流通形態が確立していないことから、上記の「船上活メ」を行わないぶりでも、販売先の需要を確認しつつ、道漁連と連携した東北4市場、関東、関西方面への出荷に試験的に取り組む。

また、「船上活メ」のぶりについては、北海道における大消費地である札幌圏に向け、需要動向のニーズを踏まえた数量にて出荷に取り組む。

近年漁獲が増加しているぶりについては、これまでなじみがなく流通形態が確立していないことから、上記の「船上活メ」を行わないぶりでも、販売先の需要を確認しつつ最適保存方法を検討しながら、「船上活メ」についても数量を増加することとし、道漁連と連携し東北4市場、関東、関西方面への販路拡大を進める。

・つぶかご漁業者（48経営体）は、新たに真つぶの種苗放流を実施するとともに、自主的な期間休漁に取り組むことにより、真つぶ資源の維持・増大を図るとともに、大学や研究機関と連携し、真つぶの生態調査や種苗生産技術開発を継続し、有効な資源管理手法の確立を目指す。

また、真つぶの漁獲後の畜養水槽や殺菌海水を活用した砂抜きや漁獲物の洗浄、消費地市場の市況を勘案しての調整出荷に取り組むべく関係者との調整に努める。

つぶの輸出については、韓国への輸出を継続するとともに、他のアジア地域に対する輸出を図るため、アジア圏の旅行代理店等に対するつぶのPR活動を実施する。

・たこ漁業者（55経営体）と漁協は、北海道庁に対し、たこの産卵・育成漁場の整備促進を継続して要請するとともに、整備した施設の効果が高めるため、自らも自主的な漁獲体長制限の実施をすることでたこの資源増大を図るとともに、消費地飲食店等においてこれまでの鮮魚から「活」へのニーズが高まっていることを背景に、漁獲後は海水シャーベット氷を入れた船内水槽に、また荷揚げ後は殺菌海水を使用した活魚水槽を活用して、消費地までの活出荷に取り組む。

	<p>・かにかご漁業者（28経営体）は、研究機関等の協力により資源量調査を実施の上、資源量を把握し、漁獲量の上限を設定するなど適正な漁獲管理に努める。また、近年、消費地からのニーズが高い活出荷を行うため、漁獲後は、シャーベット氷を入れた魚箱で活保管を実施するとともに、荷揚げ後については、滅菌海水を入れたタンクにより鮮度保持の徹底を図り、付加価値向上を見込む。</p> <p>・かれい固定式刺し網漁業者（77経営体）は、関係漁業者団体を構成する「えりも以西栽培漁業推進協議会」内に設置する「まつかわ魚価対策プロジェクトチーム」を中心に、以下の取組を通じて魚価の向上を図る。 (1)北海道栽培漁業伊達センター（まつかわの種苗生産を行う）と連携して種苗放流を行うことで資源の維持安定に努める。 (2)漁獲したまつかわの中から、一定サイズ以上、かつ、良質なものだけを選別し、漁獲後、船内ではシャーベット氷を入れた海水槽で低温保管（仮死状態とするべく5℃程度での保管）し荷揚げ後は市場内で滅菌海水を入れたタンクで保管（鮮度保持を目的に10℃程度での保管）することで活魚出荷を行う。</p> <p>また、まつかわのほか良質なさめがれい及びばがれいも含め、仲買や消費地ニーズに応え海象条件に左右されない安定した出荷体制を構築するべく、活保管による出荷調整が可能な畜養出荷に向けて課題を抽出し解決方法を検討する。</p> <p>・えりも漁協、えりも町及び関係漁業者は、庶野漁港において整備した屋根付き岸壁や荷捌き施設、作業保管施設を活用したハードとソフトが一体となった高度な衛生管理体制の強化を図るとともに、作業の効率化のため、作業にかかる動線を整理し、輻輳化を回避することで水産物への細菌混入リスクの低減及び製品への異物・夾雑物混入防止に努めるべく、漁港内の作業ルールの徹底を図る。</p> <p>・えりも漁協、様似町及び昆布漁業者は、旭地区において整備した昆布保管庫を活用した衛生面の強化を図るとともに、安全安心で高品質な昆布出荷を図る。 また、昆布保管庫の集約に伴い、これまで二名体制で行っていた集荷を一名体制で集荷することが可能となることから、職員の負担軽減が図られる。</p> <p>・えりも漁協と全漁業者は、漁業士会や青年部・女性部等の団体と連携し、地域で水揚げされる水産物（こんぶ、さけ、たこ、つぶ等）について、えりも町内で開催される「うに祭り」、「えりも庶野産直市場」、「漁協まつり」や「えりも海と山の幸フェスティバル」において販売促進活動を行うことにより、地産地消を図る。また、町外への旭川市、芽室町における「えりも庶野産直市場」の出店や札幌市内のデパートへ出展することにより、知名度の向上や販路拡大にも取り組む。 また、真つぶの海外向けPR促進のため、5カ国語で記載したパンフレットを千歳空港から各地へ出発するバスの網ポケットに備え付ける事や、定山溪温泉の宿泊施設などにおいてもパンフレットを配布し、PRを図る。 これらの取り組みにより、基準年より0.7%の収入向上を見込む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>・全漁業経営体は、減速航行の徹底や岸壁係留時における機関の停止、定期的な船底清掃及びプロペラ清掃を行うことにより、燃油消費量の削減や修理費の経費削減を図る。</p> <p>・こんぶ漁業者、沖合漁船漁業者は、省エネ型エンジンへの機関換装を行い、燃油消費の削減に取り組む。</p> <p>・えりも漁協及び全漁業者は、漁港が航路等の土砂堆積による漁業作業の非効率化などを解消するため、漁港航路の浚渫、港内の浚渫等の整備促進を国や北海道庁に対して要望するとともに、漁業者自らも潮位変化に影響されない効率的な操業体制を組むことで、燃油消費量の削減に取り組む。</p>

	<p>・さけ定置網漁業者は、春定置網漁業操業時に、えりも周辺海域に出現する大型クラゲにより、網揚げ作業の遅延や漁獲物の鮮度低下を招いていることから、大型クラゲの駆除を実施することにより、漁業被害の防止・軽減対策に取り組む。</p> <p>これらの取組みにより、基準年の漁業経費より 1.5%の削減を目指す</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・水産多面的機能発揮対策事業 ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業 ・水産基盤整備事業 ・水産業強化支援事業 ・漁業経営セーフティネット構築事業

4年目（平成34年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><継続取組内容></p> <p>・浅海漁業者（644経営体）と漁協は、こんぶ資源が持続的なものとなるよう、こんぶの遊走子が放出される9月から12月にかけて雑海藻駆除を行うことで藻場の保全に努める。また、投石を行うことで新たな藻場の確保に努める。さらに、ふのりについても漁場造成の整備促進を北海道に要請する。</p> <p>加えて、漁業者はウニやハタハタの増殖事業（種苗放流）の実施とあわせて、ヒトデ駆除に取り組むことで浅海資源の増大を図る。</p> <p>・さけ定置網漁業者（20経営体）は、漁獲後の流通過程で鮮度が長く維持されるよう、消費地販売店等からのニーズが高い秋さけ及びぶりを対象に、「船上活メ」に取り組むとともに、その後は船上にてシャーベット氷を入れた海水槽を使用して運搬し、荷揚げ後は殺菌海水を入れたタンクでの保管を行うことで衛生管理・低温保管を徹底する。このため、「船上活メ」技術の習得を目標に、漁協が中心となって、漁業者を対象とした技術講習会を開催する。</p> <p>また、漁業者は、日高定置漁業者組合と連携し、日高定置漁業者組合のブランドである「銀聖」のブランド化を推進するため、大消費地である札幌市における「北海道秋サケ祭り」や道内の地域産品を集めた物販イベント「北のアメ横さっぽろ」での展示即売会、管内の小中学校に給食の食材として「銀聖」を提供していくなど知名度の向上に取り組む。</p> <p>さらに、漁業者は、春定置網で漁獲される時鮭についても、販売先のニーズを踏まえ、船上活メの出荷割合を増加するとともに、シャーベット氷や殺菌海水を活用するなどにより、品質管理を徹底し、継続して付加価値の向上に取り組む。</p> <p>近年漁獲が増加しているぶりについては、これまでなじみがなく流通形態が確立していないことから、上記の「船上活メ」を行わないぶりでも、販売先の需要を確認しつつ、道漁連と連携した東北4市場、関東、関西方面への出荷に取り組む。</p> <p>また、「船上活メ」のぶりについては、北海道における大消費地である札幌圏に向け、需要動向のニーズを踏まえた数量の出荷を継続する。</p> <p>・つぶかご漁業者（48経営体）は、新たに真つぶの種苗放流を実施するとともに、自主的な期間休漁に取り組むことにより、真つぶ資源の維持・増大を図るとともに、大学や研究機関と連携し、真つぶの生態調査や種苗生産技術開発を継続し、有効な資源管理手法の確立を目指す。</p> <p>また、真つぶの漁獲後の畜養水槽や殺菌海水を活用した砂抜きや漁獲物の洗浄、消費地市場の市況を勘案しての調整出荷に取り組むべく関係者との調整に努める。</p> <p>つぶの輸出については、韓国への輸出を継続するとともに、他のアジア地域に対する輸出を図るため、アジア圏の旅行代理店等に対するつぶのPR活動を継続実施する。</p> <p>・たこ漁業者（55経営体）と漁協は、北海道庁に対し、たこの産卵・育成漁場の整備促進を継続して要請するとともに、整備した施設の効果が高めるため、自らも自主的な漁獲体長制限の実施をすることでたこの資源増大を図るとともに、消費地飲食店等においてこれまでの鮮魚から「活」へのニーズが高まっていることを背景に、漁獲後は海水シャーベット氷を入れた船内水槽に、また荷揚げ後は殺菌海水を使用した活魚水槽を活用して、消費地までの活出荷に取り組む。</p> <p>・かにかご漁業者（28経営体）は、研究機関等の協力により資源量調査を実施の上、資源量を把握し、漁獲量の上限を設定するなど適正な漁獲管理に努める。また、近年、消費地からのニーズが高い活出荷を行うため、漁獲後は、シャーベット氷を入れた魚箱で活保管を実施するとともに、荷揚げ後については、滅菌海水を入れたタンクにより鮮度保持の徹底を図る。</p>
---------------------	--

	<p>り、付加価値向上を見込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かれい固定式刺し網漁業者（77経営体）は、関係漁業者団体が構成する「えりも以西栽培漁業推進協議会」内に設置する「まつかわ魚価対策プロジェクトチーム」を中心に、以下の取組を通じて魚価の向上を図る。 <ol style="list-style-type: none"> (1)北海道栽培漁業伊達センター（まつかわの種苗生産を行う）と連携して種苗放流を行うことで資源の維持安定に努める。 (2)漁獲したまつかわの中から、一定サイズ以上、かつ、良質なものだけを選別し、漁獲後、船内ではシャーベット氷を入れた海水槽で低温保管（仮死状態とするべく5℃程度での保管）し荷揚げ後は市場内で滅菌海水を入れたタンクで保管（鮮度保持を目的に10℃程度での保管）することで活魚出荷を行う。 <p>また、まつかわのほか良質なさめがれい及びばがれいも含め、仲買や消費地ニーズに応え海象条件に左右されない安定した出荷体制を構築するべく、活保管による出荷調整が可能な畜養出荷に向けて課題を抽出し解決方法を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えりも漁協、えりも町及び関係漁業者は、庶野漁港において整備した屋根付き岸壁や荷捌き施設、作業保管施設を活用したハードとソフトが一体となった高度な衛生管理体制の強化を図るとともに、作業の効率化のため、作業にかかる動線を整理し、輻輳化を回避することで水産物への細菌混入リスクの低減及び製品への異物・夾雑物混入防止に努めるべく、漁港内の作業ルールの徹底を図る。 ・えりも漁協、えりも町及び昆布漁業者は、歌別地区においてこれまで使用していた昆布保管庫の老朽化等により昆布の品質が低下したことに伴って、単価が低下していたことから昆布保管庫の整備を実施する。 ・えりも漁協と全漁業者は、漁業士会や青年部・女性部等の団体と連携し、地域で水揚げされる水産物（こんぶ、さけ、たこ、つぶ等）について、えりも町内で開催される「うに祭り」、「えりも庶野産直市場」、「漁協まつり」や「えりも海と山の幸フェスティバル」において販売促進活動を行うことにより、地産地消を図る。また、町外への旭川市、芽室町における「えりも庶野産直市場」の出店や札幌市内のデパートへ出展することにより、知名度の向上や販路拡大にも取組む。 <p>また、真つぶの海外向けPR促進のため、5カ国語で記載したパンフレットを千歳空港から各地へ出発するバスの網ポケットに備え付ける事や、定山溪温泉の宿泊施設などにおいてもパンフレットを配布し、PRを図る。これらの取り組みにより、基準年より0.9%の収入向上を見込む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業経営体は、減速航行の徹底や岸壁係留時における機関の停止、定期的な船底清掃及びプロペラ清掃を行うことにより、燃油消費量の削減や修理費の経費削減を図る。 ・こんぶ漁業者、沖合漁船漁業者は、省エネ型エンジンへの機関換装を行い、燃油消費の削減に取り組む。 ・えりも漁協及び全漁業者は、漁港が航路等の土砂堆積による漁業作業の非効率化などを解消するため、漁港航路の浚渫、港内の浚渫等の整備促進を国や北海道庁に対して要望するとともに、漁業者自らも潮位変化に影響されない効率的な操業体制を組むことで、燃油消費量の削減に取り組む。 ・さけ定置網漁業者は、春定置網漁業操業時に、えりも周辺海域に出現する大型クラゲにより、網揚げ作業の遅延や漁獲物の鮮度低下を招いていることから、大型クラゲの駆除を実施することにより、漁業被害の防止・軽減対策に取り組む。 <p>これらの取り組みにより、基準年の漁業経費より1.5%の削減を目指す</p>

活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none">・水産多面的機能発揮対策事業・競争力強化型機器等導入緊急対策事業・水産基盤整備事業・水産業強化支援事業・漁業経営セーフティネット構築事業
-----------	--

5年目（平成35年度）

漁業収入向上
のための取組

<継続取組内容>

・浅海漁業者（644経営体）と漁協は、こんぶ資源が持続的なものとなるよう、こんぶの遊走子が放出される9月から12月にかけて雑海藻駆除を行うことで藻場の保全に努める。また、投石を行うことで新たな藻場の確保に努める。さらに、ふのりについても漁場造成の整備促進を北海道に要請する。

加えて、漁業者はウニやハタハタの増殖事業（種苗放流）の実施とあわせて、ヒトデ駆除に取り組むことで浅海資源の増大を図る。

・さけ定置網漁業者（20経営体）は、漁獲後の流通過程で鮮度が長く維持されるよう、消費地販売店等からのニーズが高い秋さけ及びぶりを対象に、「船上活メ」に取り組むとともに、その後は船上にてシャーベット氷を入れた海水槽を使用して運搬し、荷揚げ後は殺菌海水を入れたタンクでの保管を行うことで衛生管理・低温保管を徹底する。このため、「船上活メ」技術の習得を目標に、漁協が中心となって、漁業者を対象とした技術講習会を開催する。

また、漁業者は、日高定置漁業者組合と連携し、日高定置漁業者組合のブランドである「銀聖」のブランド化を推進するため、大消費地である札幌市における「北海道秋サケ祭り」や道内の地域産品を集めた物販イベント「北のアメ横さっぽろ」での展示即売会、管内の小中学校に給食の食材として「銀聖」を提供していくなど知名度の向上に取り組む。

さらに、漁業者は、春定置網で漁獲される時鮭についても、販売先のニーズを踏まえ、船上活メの出荷割合を増加するとともに、シャーベット氷や殺菌海水を活用するなどにより、品質管理を徹底し、継続して付加価値の向上に取り組む。

近年漁獲が増加しているぶりについては、これまでなじみがなく流通形態が確立していないことから、上記の「船上活メ」を行わないぶりでも、販売先の需要を確認しつつ、道漁連と連携した東北4市場、関東、関西方面への出荷の販路拡大を図る。

また、「船上活メ」のぶりについては、北海道における大消費地である札幌圏に向け、需要動向のニーズを踏まえた数量の出荷を継続する。

・つぶかご漁業者（48経営体）は、新たに真つぶの種苗放流を実施するとともに、自主的な期間休漁に取り組むことにより、真つぶ資源の維持・増大を図るとともに、大学や研究機関と連携し、真つぶの生態調査や種苗生産技術開発を行った。今後、これらの調査結果を活用した種苗生産や資源管理に取り組む。

また、真つぶの漁獲後の畜養水槽や殺菌海水を活用した砂抜きや漁獲物の洗浄、消費地市場の市況を勘案しての調整出荷に取り組むべく関係者との調整に努める。

つぶの輸出については、韓国への輸出を継続するとともに、他のアジア地域に対する輸出を図るため、アジア圏の旅行代理店等に対するつぶのPR活動の実施結果や需要ニーズを踏まえた、輸出を実施する。

・たこ漁業者（55経営体）と漁協は、北海道庁に対し、たこの産卵・育成漁場の整備促進を継続して要請するとともに、整備した施設の効果が高めるため、自らも自主的な漁獲体長制限の実施をすることでたこの資源増大を図るとともに、消費地飲食店等においてこれまでの鮮魚から「活」へのニーズが高まっていることを背景に、漁獲後は海水シャーベット氷を入れた船内水槽に、また荷揚げ後は殺菌海水を使用した活魚水槽を活用して、消費地までの活出荷に取り組む。

・かにかご漁業者（28経営体）は、研究機関等の協力により資源量調査を実施の上、資源量を把握し、漁獲量の上限を設定するなど適正な漁獲管理に努める。また、近年、消費地からのニーズが高い活出荷を行うため、漁獲後は、シャーベット氷を入れた魚箱で活保管を実施するとともに、荷

	<p>揚げ後については、滅菌海水を入れたタンクにより鮮度保持の徹底を図り、付加価値向上を見込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かれい固定式刺し網漁業者（77経営体）は、関係漁業者団体に構成する「えりも以西栽培漁業推進協議会」内に設置する「まつかわ魚価対策プロジェクトチーム」を中心に、以下の取組を通じて魚価の向上を図る。 <p>(1)北海道栽培漁業伊達センター（まつかわの種苗生産を行う）と連携して種苗放流を行うことで資源の維持安定に努める。</p> <p>(2)漁獲したまつかわの中から、一定サイズ以上、かつ、良質なものだけを選別し、漁獲後、船内ではシャーベット氷を入れた海水槽で低温保管（仮死状態とするべく5℃程度での保管）し荷揚げ後は市場内で滅菌海水を入れたタンクで保管（鮮度保持を目的に10℃程度での保管）することで活魚出荷を行う。</p> <p>また、まつかわのほか良質なさめがれい及びびばがれいも含め、仲買や消費地ニーズに応え海象条件に左右されない安定した出荷体制を構築するべく、活保管による出荷調整が可能な畜養出荷に向けて課題を抽出し解決方法を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えりも漁協、えりも町及び関係漁業者は、庶野漁港において整備した屋根付き岸壁や荷捌き施設、作業保管施設を活用したハードとソフトが一体となった高度な衛生管理体制の強化を図るとともに、作業の効率化のため、作業にかかる動線を整理し、輻輳化を回避することで水産物への細菌混入リスクの低減及び製品への異物・夾雑物混入防止に努めるべく、漁港内の作業ルールの徹底を図る。 ・えりも漁協、えりも及び昆布漁業者は、本町地区においてこれまで使用していた昆布保管庫の老朽化等により昆布の品質が低下したことに伴って、単価も低下していたことや、これまで2箇所で行い、非効率だった昆布保管を1箇所で集約するため、昆布保管庫の整備を実施する。 ・えりも漁協と全漁業者は、漁業士会や青年部・女性部等の団体と連携し、地域で水揚げされる水産物（こんぶ、さけ、たこ、つぶ等）について、えりも町内で開催される「うに祭り」、「えりも庶野産直市場」、「漁協まつり」や「えりも海と山の幸フェスティバル」において販売促進活動を行うことにより、地産地消を図る。また、町外への旭川市、芽室町における「えりも庶野産直市場」の出店や札幌市内のデパートへ出展することにより、知名度の向上や販路拡大にも取り組む。 <p>また、真つぶの海外向けPR促進のため、5カ国語で記載したパンフレットを千歳空港から各地へ出発するバスの網ポケットに備え付ける事や、定山溪温泉の宿泊施設などにおいてもパンフレットを配布し、PRを図る。</p> <p>これらの取り組みにより、基準年より1.2%の収入向上を見込む。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全漁業経営体は、減速航行の徹底や岸壁係留時における機関の停止、定期的な船底清掃及びプロペラ清掃を行うことにより、燃油消費量の削減や修理費の経費削減を図る。 ・こんぶ漁業者、沖合漁船漁業者は、省エネ型エンジンへの機関換装を行い、燃油消費の削減に取り組む。 ・えりも漁協及び全漁業者は、漁港が航路等の土砂堆積による漁業作業の非効率化などを解消するため、漁港航路の浚渫、港内の浚渫等の整備促進を国や北海道庁に対して要望するとともに、漁業者自らも潮位変化に影響されない効率的な操業体制を組むことで、燃油消費量の削減に取り組む。 ・さけ定置網漁業者は、春定置網漁業操業時に、えりも周辺海域に出現する大型クラゲにより、網揚げ作業の遅延や漁獲物の鮮度低下を招いていることから、大型クラゲの駆除を実施することにより、漁業被害の防止・軽減対策に取り組む。 <p>これらの取り組みにより、基準年の漁業経費より1.5%の削減を目指す</p>

活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・水産多面的機能発揮対策事業 ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業 ・水産基盤整備事業 ・水産業強化支援事業 ・漁業経営セーフティーネット構築事業
-----------	---

(5) 関係機関との連携

取組みの効果が十分に発現されるよう、行政（えりも町、様似町、北海道）及び系統団体（北海道漁業協同組合連合会）との連携を密にし、関係事業を推進するとともに、国の事業に関して北海道日高振興局や各関係各町を通じ、情報収集等を行い、円滑な事業の推進を図る。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上10%以上	基準年	平成29年度：漁業所得
	目標年	平成35年度：漁業所得

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

タコの活出荷割合の増加	基準年	平成27～29年度： (3ヶ年平均)
	目標年	平成35年度：

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産多面的機能発揮対策（国、道、町）	藻場等の漁場環境の改善等
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	省力・省コスト化、生産性の向上に資する機器等の導入
漁業経営セーフティーネット構築事業	漁業燃油高騰の影響を支援
水産基盤整備事業	漁港や漁場の整備、保全により資源増大や効率的で安全な漁業活動が図られる。
水産業強化支援事業	作業保管施設及び昆布保管倉庫の整備
有害生物漁業被害防止総合対策事業	大型クラゲによる作業の遅延、漁獲物の鮮度低下を防止するため大型クラゲの駆除を実施する。

